市指定文化財（記念物・史跡）

昭和４０（１９６５）年３月１７日指定
管理者　葛羅の井保存会

葛羅の井

旧栗原本郷の葛羅の井は、葛飾明神の御手洗といわれ、明神の旧社地東下の古作道の路傍にあります。現在はコンクリートで固められた直径１８０㎝ほどの円い井戸で、昔はこの水脈が竜宮界まで通じているといわれていました。またいかなる日照りにも水が涸れることはなく、瘧疾（瘧。主にマラリアの一種。）を患う者がこの井の水を飲めば、治るともいわれました。

葛羅の井の前には、石碑があります。この石碑は文化９（１８１２）年、蜀山人大田南畝が本郷村の世話人惣四郎に頼まれて「葛羅之井」を揮毫し、銘文を撰したものです。文化１０（１８１３）年に刊行された鈴木金堤の『勝鹿図志手繰舟』に、早くもこの石碑が紹介されました。また天保７（１８３６）年刊行の『江戸名所図会』では「葛飾明神社」の中で、挿絵と共に「葛の井」として紹介されています。

その後人々の記憶から遠ざかっていましたが、戦後永井荷風が随筆『葛飾土産』でこの石碑を紹介したことから、再び世に知られる存在となりました。

永井荷風と葛羅の井（『葛飾こよみ』より）

碑文

下総勝鹿　郷隷栗原
神祇瓊杵　地出醴泉
豊姫所鑒　神龍之潤
大旱不涸　湛乎維円
名曰葛羅　不絶綿綿

南畝聖撰
文化九年壬申春三月建
本郷村中世話人惣四郎

読み下し文

下総の勝鹿（葛飾）
郷は栗原に隷す
神は瓊杵（瓊瓊杵）を祀る
地は醴泉を出す
豊姫の鑒する所
神龍の潤
大旱にも涸れず
湛乎としてこれ円なり
名づけて葛羅と曰う
絶えざること綿綿たり

船橋市教育委員会